

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	デッサン(Dessin)		授業コード	P110201
担当教員名	足立 元		科目ナンバリングコード	P11102
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	コース必修	単位数	1	
履修上の注意または履修条件	1時間1時間の授業を大切にしてください。実技を伴うこの授業では1課題毎に評価(採点)していますので、一度欠席をしただけでも最終的な評価は不利となります。欠席しないようにしてください。			
受講心得	毎時間、演習を通じて課題に取り組みます。基本的には個人単位の制作演習を行いますので、各自が課題制作に真剣に取り組むことを期待します。			
教科書	資料を配布します。			
参考文献及び指定図書				
関連科目	造形、広告デザイン、コンピュータグラフィックス基礎、コンピュータグラフィックス応用、3D CAD基礎、3D CAD応用			

授業の目的	この科目の目的は鉛筆による描写の訓練を通して、デザインを志す者にとって必要不可欠な造形力および造形感覚の基礎となる表現力を養うことにあります。観察と描写、遠近法の理解と表現などを通して私たちの周りにある物を視覚的に捉え表現することを学びます。物の持っている表情を観察し光と陰影、質感を表現することや、空間と立体の表現について学びます。また、想像による描写やデフォルメのトレーニングを通して表現の深まりを求めます。
授業の概要	次の4点を中心に演習形式で学習します。 1. 対象の形態的な構造を把握し、平面上に表現される立体として追求する学習をします。 2. 対象の固有色や陰影に留意して、明暗の調子をつくりながら表現する学習をします。 3. 複数の物体の関係を有機的に把握し、空間を表現する学習をします。 4. 自らの考えをビジュアルに構想する訓練を通して、想像したイメージを豊かに表現する学習をします。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 授業を通して、何のためにどのような力を付けようとするのかについて話をします。	オリエンテーション、アンケート
第2週：形と明暗 視点の違いによる形の見え方の変化、明暗・陰影について学習します。陰影の表現方法などについての練習課題を出します。	課題1 グラデーション、手のデッサン
第3週：描画の要素 線の性質と感情、質感、量感、動勢についての学習をします。	課題2 人物クロッキー
第4週：石膏デッサン 対象物の形態や明暗、構造などを石膏像を描くことを通じて学びます。これまで学習した線や面の表現、陰影、量感などを実践的に用いる訓練を行います。	課題3 石膏デッサン(基本形体)
第5週：静物デッサン1 単体のモチーフを詳細に観察して描写する訓練を積み重ねます。立体を把握し、表現するための観察力を養います。	課題4 静物デッサン1
第6週：静物デッサン2	課題5

単体のモチーフを詳細に観察して描写する訓練を積みます。硬い、柔らかい等の質感を把握し、表現するための観察力を養います。	静物デッサン2	
第7週：透視図法1 透視図法の歴史と現代の表現を学び、1点透視図法と2点透視図法の基本練習を行います。	課題6 透視図法1	
第8週：透視図法2 1点透視図法と2点透視図法の作画練習を行います。室内と建築物外観の設計図をもとに透視画を作画します。	課題7 透視図法2	
第9週：透視図法3 1点透視図法と2点透視図法の作画練習を行います。第8週に引き続き、室内と建築物外観の設計図をもとに透視画を作画します。	課題7 透視図法2	
第10週：建築物のデッサン1 前回までに学習した透視図法を応用し、学内の建築物をデッサンします。これにより、透視図法の理解を深め、表現力を養います。	課題8 建築物のデッサン	
第11週：建築物のデッサン2 第10週に引き続き学内の建築物をデッサンします。透視図法の理解を深め、表現力を養います。	課題8 建築物のデッサン	
第12週：建築物のデッサン3 第11週に引き続き学内の建築物をデッサンします。透視図法の理解を深め、表現力を養います。	課題8 建築物のデッサン	
第13週：想定デッサン1 これまで培った描写力を生かして、自らの考えをビジュアルに構想して表現する訓練を行います。まず基本形態を空間に配置する訓練を行います。	課題9 想定デッサン1	
第14週：想定デッサン2 これまで培った描写力を生かして、自らの考えをビジュアルに構想して表現する訓練を行います。テーマを設定し、そこから想像する世界を表現します。	課題10 想定デッサン2	
第15週：想定デッサン3 これまで培った描写力を生かして、自らの考えをビジュアルに構想して表現する訓練を行います。自らの内面を見つめ、自分の想像したイメージを豊かに表現します。	課題11 想定デッサン3	
第16週： 試験は実施しません。授業中の課題によって成績を評価します。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	表現の対象を観察する態度を養う。
【知識・理解】	対象の形態的な構造を把握し、立体や空間として表現できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	対象の固有色や陰影に留意して明暗の調子をつくりながら表現できる。
【思考・判断・創造】	複数の物体の関係を有機的に把握しながら表現できる。自らの考えをビジュアルに表現する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		5点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		40点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		40点	10点	
<p>(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	対象の形態的な構造の把握、明暗の調子、複数の物体の関係を有機的に把握した空間表現の観点から評価します。また考えをビジュアルに構想することと、想像したイメージの豊かな表現を重視します。
発表・その他 (無形成果)	1. 無駄話をせず、集中して制作に取り組むこと。 2. 与えられた材料を無駄にせず、有効に使うこと。